

令和5年度特別支援教育に関する実践研究充実事業  
(盲ろう児に対する指導の在り方に係る調査研究)  
成果報告書

|               |
|---------------|
| 受託団体名         |
| 国立大学法人 大阪教育大学 |

1. 研究のテーマ

「A 盲ろう児を担当する教師に対する研修の在り方」

2. 研究の名称

盲ろう幼児児童生徒に対する指導実践事例の収集・整理と教員研修プログラム等の作成開発に関する研究

3. 研究代表者

| 氏名   | 所属       | 役職   |
|------|----------|------|
| 早野眞美 | 特別支援教育部門 | 特任教授 |

4. 事業の実績

(1) 研究の目的・目標

|   |
|---|
| <b>研究の目的</b>  |
| 盲ろう幼児児童生徒に対する指導実践事例を集積・整理し、担当教員への指導方法や研修事項を整理し、国立特別支援教育総合研究所や国立大学法人筑波大学の先行研究を踏まえ、専門性の高い盲ろう幼児児童生徒に関わる教員の育成のための教員研修プログラムの作成、開発に取り組む。  |
| <b>研究の目標</b>  |
| 1. アンケート調査<br>全国の視覚・聴覚支援学校188校を対象として、過去の例を含めて、郵送による質問紙調査を実施する。 <u>目標：回収率は80%以上（144校）</u>  |
| 2. 先行研究校および取り組みを実践している学校への視察調査<br>2023年10月から12月にかけて、筑波大学附属視覚支援学校など、先行研究校の視察をすると共に先の全国の視覚・聴覚支援学校188校に対する調査結果を元に、盲ろうの幼児児童生徒の実践に取り組んでいる学校を視察する。 <u>目標：取組事例のある学校は全て視察する</u>                             |
| 3. 調査結果の整理と指導法の集積<br>2024年1月から2月にかけて、調査結果から得られた支援の方法、相談体制、関係機関との連携などについて整理するとともにし、指導法を集積し、先行研究との比較検討を行う。加えて指導法等の集積結果を元に、盲ろうの専門家を招聘して研修プログラムの作成に取り組み、研修プログラムを作成する。また、作成した研修プログラムを用いて、盲ろうの専門家、全国の視覚・聴 |

覚支援学校の担当教員などを対象に2025年2月に研修会を実施する。

**目標：成果報告書を作成し、全国の視覚・聴覚支援学校に配布し成果を還元する**

## (2) 取組内容

### 1. アンケート調査

令和5年11月から12月に全国の視覚・聴覚支援学校188校を対象として、郵送による質問紙調査を実施した。

**実際の対象校188校（視覚支援67校 聴覚支援121校）**

**回収率 全体：57%（視覚63% 聴覚54%）**

**盲ろう児が在籍の視覚・聴覚支援学校が34校 延べ人数48人**

### 2. 先行研究校や取り組みを実践している学校、盲ろう児が在籍している学校への視察調査

- 令和6年2月 実績校の山梨盲学校、先行研究校として横浜訓盲学院への視察訪問をした。
- 2月から3月に在籍している学校への訪問調査

①全盲ろう、②盲難聴、③弱視ろう、④弱視難聴、の4つの分類における障害の程度別や、盲ろう状態になった時期での①先天盲ろう、②先天盲後天ろう、③先天ろう後天盲、④後天盲ろう、の4つの分類による配慮や支援の方法、相談体制、関係機関との連携などについて過去の例を含めて調査した。また、各学校における共通点や違い、先進的な取り組みなどを調査した。

**訪問校：北海道高等聾学校・札幌聾学校・青森聾学校・葛飾ろう学校・一宮聾学校・大阪南視覚支援学校・生野聴覚支援学校・神戸聴覚支援学校・徳島視覚聴覚支援学校・久留米聴覚特別支援学校**

- 電話による調査

**調査校：沼津視覚特別支援学校**

アンケート結果や視察調査結果をまとめたものを4月以降送付予定

### 3. 調査結果の整理と指導法等の集積

令和6年1月から3月にかけて、調査結果から得られた支援の方法、相談体制、関係機関との連携などについて整理するとともに、指導法等を集積し、先行研究との比較検討を行う。視察調査の中で担当の教員のニーズから盲ろう児の実態把握や支援のためのチェックリストを含むハンドブックの必要性が示唆されたため、その作成に向けて取り組みを進めている。

## (3) 事業の実施日程

| 実施時期   | 実施内容                                  |
|--------|---------------------------------------|
| 令和5年8月 | 郵送調査の打ち合わせ（調査項目等）                     |
| 11月    | 調査実施                                  |
| 令和6年1月 | 調査の集計                                 |
| 2月     | 実績校山梨盲学校・先行研究校横浜訓盲学院への視察<br>在籍校への訪問調査 |
| 3月     | 調査分析と訪問調査のまとめた報告書作成中                  |
| 4月     | 報告書をホームページ上に掲載予定                      |
|        | 報告書送付予定                               |

#### (4) 研究の成果

- 前記の(1)～(3)をもとに本事業を実施した成果として、①～③までの成果が得られた。
- ① 全国の視覚・聴覚支援学校 188 校（視覚支援 67 校 聴覚支援 121 校）のうち、盲ろう児については 34 校 48 名の在籍を明らかにすることができた。また、4 つの障害分類（全盲ろう・盲難聴・弱視ろう・弱視難聴）や、4 つの受障時期の分類（先天盲ろう・先天盲後天ろう・先天ろう後天盲・後天盲ろう）といった詳細な実態についても明らかにすることができた。一例を挙げると障害分類別では、全盲ろう 2.1%、盲難聴 22.9%・弱視ろう 12.5%・弱視難聴 62.5%であったことから、弱視難聴の割合が多いことが明らかとなり、弱視難聴への対応の必要性が示唆された。
  - ② また、アンケート調査からは、教育相談等で、他障害の支援学校と連携している割合は 5.9%（34 校中 2 校）のみと少ないことが明らかとなった。このことから、視覚支援学校では、聴覚障害教育に関する情報が得られにくく、聴覚支援学校では、視覚障害教育に関する情報が得られにくいのではないかと仮説が得られた。
  - ③ 以上、①②を踏まえて、34 校の内 11 校について、視覚支援学校の担当教員・聴覚支援学校の担当教員に訪問調査を実施した。結果、担当教員についても視覚支援学校および聴覚支援学校、いずれも経験していた教員は 9.1%と少なく、視覚支援学校の担当教員は、聴覚障害教育の知識が得られにくい状態であり、逆に聴覚障害の担当教員は、視覚障害教育の知識が得られにくい状態であることが確認され、仮説が支持された。また、盲ろう児の受け入れに際しては、弱視難聴といった障害の程度が重度ではない児童生徒への視点を含めて、視覚障害教育・聴覚障害教育、双方の実態把握の方法や教育における知識等を確認できるハンドブック等の必要性が示唆された。

#### (5) 研究の課題と今後の方策

(1)～(4)の取り組みの結果、前記のように、視覚障害教育・聴覚障害教育における実態把握や知識等を確認できるハンドブックの作成が重要な課題として検討している。今後は、ハンドブックの作成に向けて、その内容について検討を進めていく（例えば視覚障害であれば、障害と網膜剥離の可能性や、歩行の状態から見え方や将来の歩行に向けたチェックの方法等の内容を含めることを検討）。なお、検討にあたっては、視覚支援学校および聴覚支援学校の担当教員や盲ろうの研究者と協働して検討するようにしていく。また、これらの成果を広く還元するための課題として、研修プログラムの作成の課題も挙げられる。研修プログラムの作成にあたっては、ハンドブックの使用方法を含めて、視覚障害教育・聴覚障害教育における実態把握や知識等についての研修と、先行研究校における瞬間消失型情報（話し言葉や音声のような消失してしまう情報）・痕跡型情報（実物のスプーンが貼り付けられたカードなど、手で触れることができるような消失しない情報）といった視点からの教材作り等を含めた、研修プログラムの作成を検討していく。

#### 5. 実施体制

| 担当者氏名 | 所属・役職等        | 具体的な役割                         |
|-------|---------------|--------------------------------|
| 早野眞美  | 特別支援教育部門 特任教授 | 研究代表者<br>(研究の統括・専門家等のコーディネート等) |

|      |                |                    |
|------|----------------|--------------------|
| 井坂行男 | 特別支援教育部門 教授    | 調査結果の分析・研修会の計画立案   |
| 西山 健 | 特別支援教育部門 教授    | 調査結果の分析・研修会の計画立案   |
| 正井隆晶 | 特別支援教育部門 特任准教授 | ハンドブック作成・研修会の計画立案  |
| 湯浅哲也 | 特別支援教育部門 講師    | ハンドブックの作成・研修会の計画立案 |

## 6. 研究協力機関・校の一覧

| (ふりがな)<br>学校名   | 障害種         | 具体的な役割          |
|---|-------------|-----------------|
| (どくりつぎょうせいほうじんとくべつしえんきょういく<br>そうごうけんきゅうしょ)<br>独立行政法人特別支援教育総合研究所 | 盲ろう<br>重複障害 | 研修プログラム作成アドバイザー |
| (しりつよこはまくんもうがくいん)<br>私立 横浜訓盲学院                                  | 盲ろう<br>視覚   | 研修プログラム作成アドバイザー |
| (どうりつほっかいどうこうとうろうがっこう)<br>道立 北海道高等聾学校                           | 聴覚          | ハンドブック作成アドバイザー  |
| (おおさかふりついくのちょうかくしえんがっこう)<br>大阪府立生野聴覚支援学校                        | 聴覚          | ハンドブック作成アドバイザー  |
| (おおさかふりつおおさかみなみしかくしえんがっこう)<br>大阪府立大阪南視覚支援学校                     | 視覚          | ハンドブック作成アドバイザー  |
| (おおさかふりつおおさかきたしかくしえんがっこう)<br>大阪府立大阪北視覚支援学校                      | 視覚          | ハンドブック作成アドバイザー  |